

心ふれあう

ちょっといい話

おかやまのちょっといい話

シリーズ 20

※チラシは偶数月の第一日曜日に皆様にお届けしています。過去のシリーズはアーバンホールのホームページでもご覧いただけます。

試験と母のお弁当

どんよりとした冬の空。
厚く垂れこめた雲からは今にも雪が舞いそうな朝でした。道行く人は足早に駅へ歩いていきます。

その日は、センター試験でした。夏休みも冬休みもこの1年間、この日の為に頑張ってきました。前日の夜は緊張のあまりよく眠れませんでした。今日この日のために努力してきたかと思うと自分で自分にかけたプレッシャーに押しつぶされそうになっていました。

母は、「今まで頑張ったんだから大丈夫よ」と送り出してくれました。志望校への偏差値には少し届いていませんでしたが、もういままさら

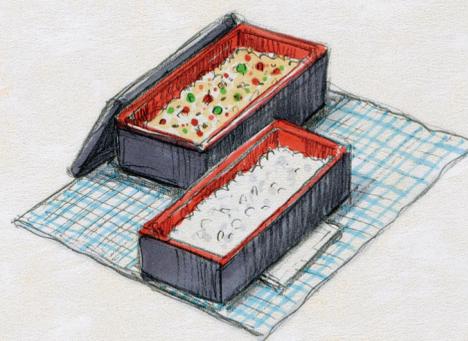
どうすることもできません。

しかし、そんな風に当時は割り切ることもできませんでした。大丈夫かな、時間足りるかな、どこまでできるかな。そんな思いが頭をグルグル回ります。試験会場は暖房が効いていて、温かく、かじかんた手も徐々にほぐれてきました。

最初の科目は世界史。
しかし、最初の世界史の試験で大失態をやらかしてしまいました。
部屋の暑さと、緊張から舞い上がったしまい、試験時間を20分間違えていたのです。

最後の設問を回答する時間が無くなってしまいました。最悪です。
信じられないミスでした。
この一年の努力が無駄になった気がして、私の落ち込み様は人生が終わったかの様でした。

お昼が来て、お昼休みになり弁当を開けました。私のお弁当は二段弁当。ぽつと蓋をあけるとチャーハン



でした。私の母は料理が苦手で、チャーハンなんて初めて見ました。頑張ってくれたんだなあと、ちょっと感動しました。しかし二段目を開けると入っていたのは白米。まさかの両方お米です。こんな大事な日に、母らしいと言えば母らしいですが、ずっこけました。

あまりに恥ずかしくて友達には見せられません。でも、なんだか可笑しくなってきた。緊張がほぐれたような気がしました。その時、白飯の底の方からラップに包まれた紙が出てきました。

なんだろうと開くと母のメッセージです。そこには「調子が良からうが悪からうが、試験は終わるし、人生は続きます。しっかりね」と書かれていました。なんだか見透かされたような気分でしたが、母の弁当のおかげで午後からは気持ちを切り替えて望めました。家に帰って報告をすると「まあ、そんなことよ、私の子だもの」とあっけらかんと言われ、「明日はおかず入れとくからね」と。2日目は自分でも良くでき、自己採点では初日の失点をカバーすることができていました。

あれができていればと悔やむ気もちもありましたが、今思えばそれも運命であり、自分自身なのだと思っけて入れています。
今では母のおおらかさと、この失敗は私の人生の大きな経験となっています。

人間は神ではない。誤りをするとところに人間味がある。
山本五十六

人は成功や失敗で喜んだり、自己嫌悪に陥ったり。それでも少しずつ前進できると思います。そのためには懸命さというものが一番大切なのではないでしょうか。

葬儀・法要・ギフト

あなたのアーバンホール

アーバンホール